

## Visa、大学生向け金融教育プログラムを発表

### 金融行動を通じた キャリア開発プログラムで 大学生の金融リテラシーとライフプランニング能力向上を目指す

ビザ・ワールドワイド(以下:Visa、代表取締役:岡本和彦、所在地:東京都千代田区)は、本日、開催した「Visa 金融教育ワークショップ」において、金融教育・消費者教育がご専門の横浜国立大学教育人間科学部の西村隆男教授の協力の下、日本の大学生に向けて開発した包括的な金融教育プログラムを発表しました。このプログラムは、今後、日本を担っていく大学生の金融リテラシーの向上を目的とし、日常生活における行動や判断には、実は経済的な意味があること、そしてその理解がキャリア開発や人生設計にいかに関与するかを実践の中で修得していくプログラムです。講義は、人生における実践力をつけることに重きを置き、金融教育の基礎概念を体系的に学習する講義形式を導入部分として採用しながら、講義の多くをケーススタディ形式で構成していく2部構成を取っています。「就職・大学院進学」「給与と税金・社会保険」といった大学生がこれから実際に直面するであろうケースを通じて金融リテラシーの向上と実践力養成を目指します。

#### 日常生活に必要な金融教育の基礎概念とツールの修得(講義形式)

先ず、自身が日常的に下している判断や選択(例えば、授業時間外にアルバイトをするのか自己啓発やキャリア形成の勉強をするのかなど)が、経済的にはどのような意味を持つのかを理解するために、金融教育の基礎概念を中心に講義形式で学びます。また、資金管理の有効な基本ツールとして「PBS」=プランニング(P、計画性)、バジェット(ing(B、予算)とセービング(S、貯蓄)についても学び、単に概念のみの修得に終わらず、日常生活での資金管理の実践力を高める方法についても修得していきます。

#### 金融教育の基礎概念

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ① 情報の非対称性   | ⑤ キャッシュ・フロー |
| ② 機会費用      | ⑥ エクイティ     |
| ③ リスクマネジメント | ⑦ PBS       |
| ④ 時間価値      |             |

#### 通じた金融リテラシーの向上と実践力養成(ケーススタディ形式)

講義形式で学んだ金融教育の基礎概念を学生が自分の日常生活の中で応用できる実践力を養成するために、人生の様々なシーンをケーススタディにし、概念を利用しながら金融的に賢い意思決定ができる能力を鍛えます。ディスカッション形式を採用し、情報分析能力、コミュニケーション能力、意思決定能力を含めた実践力を高めていきます。ケーススタディの中ではマクロ経済、ミクロ経済など経済全体の動きと個人の金融活動の関連性についても触れ、よりグローバルな視点での意思決定能力の養成にも力を入れていきます。

#### ケースで扱う人生のシーン例

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| ① 人生の選択(就職・大学院進学) | ⑦ 病気・入院            |
| ② 給与と税金・社会保険      | ⑧ 交通事故             |
| ③ 購買行動と信用履歴       | ⑨ 資産管理             |
| ④ 車購入             | ⑩ リストラ・失業・セーフティネット |
| ⑤ 海外旅行            | ⑪ 老後ファイナンスと引退計画    |
| ⑥ 住宅購入            | ⑫ 人生の選択(不確実性)      |

プログラム立案にかかわった西村教授は、教育現場での課題と金融教育の重要性について以下のように述べています。「大学教育において、金融リテラシーの重要性に対する理解の向上と普及のための素地作りが必要です。しかし、現状の教育現場では、普及を促すための教材も人的リソースも不足しています。一方、大学生は、選択肢がある

ことに気づけないまま意思決定することで、経済的に損をしていたり、問題に遭遇してしまったりという事態に陥っていることもあります。大学生に学として、個人ファイナンスを認識させるとともに、近年の大学教育で必要性が謳われている実践力をつけることを目的に、Visa が金融教育に本格的に取り組むことは、先見性が高く、極めて有意義なものと言えるでしょう。」

Visa が調査会社の株式会社シタシオンジャパンに委託した調査<sup>1</sup>から、日本の大学生において、金融リテラシーの重要性への理解の低さが明らかになりました。日本の大学生は、学校教育における金融教育の経験の割合、受けた金融教育への満足度ともに、米国の 2 分の 1 と低く、また、日本の大学生は、短・中・長期のいずれにおいても、プランニングの実施が低く、ライフプランニング能力が欠如しているという結果が出ています。また、日本においては、消費者問題に関する教育（講義やゼミ）を必修科目としているのは、わずか 14.5% に留まっており<sup>2</sup>、学部や学科も限定的となっています。また、個人ファイナンスに関しては、ほとんどの大学で該当する科目名称が見られませんでした。

大学生や大学での金融教育の捉えられ方が限定的であるものの、インターネットによる取引被害が拡大するなど、消費者被害が高度化・複雑化する中、消費者教育の社会的ニーズが高まり、新たに「消費者教育推進法」が、平成 2012 年 8 月 10 日に衆議院本会議で可決、成立しました。同法においては、大学における消費者教育は、従来通りの「騙されないため」に注意喚起をするのみではなく、将来を見通したライフプランニング能力や課題解決能力を修得できるものであることが、特に求められています。

このような状況を踏まえ、Visa は、社会との接点が高まり、経済活動も活発になるにもかかわらず、社会的経験が乏しい大学生に対して金融行動を通じたキャリア開発プログラムを通して金融トラブルに陥らない能力知識の修得を支援するとともに、金融リテラシーとライフプランニング能力の向上を助けていくことは重要であると考えています。Visa は、消費者が経済的判断を自らが行っていけるよう、グローバルで金融活動への参画を推進しており、日本において今後も、包括的な金融教育プログラムの普及に取り組んでまいります。

###

## ビザ・ワールドワイドについて

ビザ・ワールドワイド(以下、Visa)は、世界規模のペイメントテクノロジーを提供する企業です。世界の 200 以上の国と地域において、現金・小切手の代わりに電子通貨を利用することを可能にし、消費者、企業、金融機関、政府機関を結ぶ役割を果たしています。毎秒 2 万件を超す取引を処理できる VisaNet は世界でも最先端の情報処理ネットワークで、電子通貨の基盤であると同時に、消費者を詐欺や不正行為から守り、加盟店への確実な支払いを可能にしています。Visa の事業の特色として、カード発行、融資、会費や利息の設定を消費者に直接行わないことが挙げられます。Visa は取引先金融機関を通じて、デビットカードによる即時決済、プリペイドカードによる事前決済、クレジットカードによる事後決済といった多彩な選択肢を提供しています。詳しくは [www.corporate.visa.com](http://www.corporate.visa.com) (英語サイト) または [www.visa.co.jp](http://www.visa.co.jp) (日本語サイト) をご覧ください。

<sup>1</sup> 2012 年 3 月、日米の大学生に、小・中・高等学校のいずれかで、金融教育を受けた経験の有無、またその満足度について調査をしました。金融教育の経験については、日本の大学生は 39.7% (124 名)、米国は 72.2% (249 名) となり、米国との差は 2 倍という結果でした。さらに、金融教育経験者に、学校教育で受けた金融教育に対する満足度を聞いたところ、「役立っている」との回答は、日本の大学生は 34.6%、米国は 69.4% となり、満足度においても、日本の大学生は米国の 2 分の 1 であることが分かりました。調査内容の詳細は、Visa プレスリリース (2012 年 4 月 24 日発表) 「金融教育の経験・満足度ともに日本の大学生は米国の 1/2 日本大学生の生活設計力の欠如が明らかに」をご参照ください。URL: [http://www.visa-asia.com/ap/jp/mediacenter/pressrelease/NR\\_JP\\_240412.shtml](http://www.visa-asia.com/ap/jp/mediacenter/pressrelease/NR_JP_240412.shtml)  
<sup>2</sup> 文部科学省委託調査「消費者教育に関する取組状況調査」(平成 22 年)によると、講義(公開講座含む)及びゼミにおける消費者問題に関する教育について聞いたところ、496 大学からの回答のうち、約 8 割(83.0%)が選択科目で、必修科目は 14.5%であった。

## Visa 大学生向け金融教育プログラム： プログラム詳細内容

Visa が日本の大学生向けに開発した金融教育プログラム内容<sup>1</sup>(シラバス)は以下の通りです。同プログラムを通じ、大学生が積極的に自身のライフプランニングに関わり、キャリア開発を可能とできることを目指します。

以下、シラバスからの引用となります。

### Financial Literacy Education 金融行動を通じたキャリア開発

● **本講義のねらい**

Financial Literacy Education金融行動を通じたキャリア開発は教養科目の1つであり、これからの人生を賢く生きるために基礎的かつ重要な知識と実践力を修得するためのコースです。

金融リテラシー(Financial literacy)とは積極的に自分の人生設計に関わっていくために必要な能力です。特に社会人経験のない学生にとって、見えない機会費用のコンセプトと金融リテラシーの利点を理解すれば、将来の人生の価値を無限に高める機会となるでしょう。

本講義の第1のゴールは受講生各人が人生の様々な局面において、また日常生活のあちこちで金融的にスマートな意思決定をするためのフレームワークを構築することです。それは高価なものを買う場面であったり、キャリアを決定したりと様々な場合で役立つ金融的思考のフレームワークです。また、第2のゴールはコミュニケーション力、分析力、マネジメント力をつけることです。こうした実践力を鍛えるために、正しい金融的意思決定に必要な概念と基礎知識を講義形式で学習したのち、ディスカッションとケーススタディを中心に多くの講義時間を割く予定です。

● **Course Structure and Content(授業科目の内容)**

金融行動を通じたキャリア開発はとてユニークな学習形式【ケーススタディ形式】となっています。各回、課題として指定された教材に基づいてケーススタディと補足講義があります。的確な知識に基づいた交渉力、分析力、意思決定能力などの実践力を修得できるしくみになっており、学生の積極的な参加が求められます。

● **Course Schedule(内容)**

### Section I: Case Study ケース講義

セッション番号	内容/Contents
Session 1&2 ガイダンスと基本事項 金融教育の基本概念について ミニ事例を交えて学ぶ	講義全体のガイダンスの後に、金融リテラシーを高めていく上で重要な7つの概念についてミニ事例を活用しながら、それら概念の重要性とどういった意味があるのかと修得する。これは3講目以降のケーススタディの準備段階でもある。 修得理論 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報の非対称性</li> <li>● 機会費用</li> <li>● リスクマネジメント</li> <li>● 時間価値</li> <li>● キャッシュ・フロー</li> <li>● エクイティ</li> <li>● PBS</li> </ul>

<sup>1</sup> プログラムは、2012年9月28日現在の内容です。変更されることがありますこと、予め、ご了承ください。

## Section II: Case Study ケース講義

講義中で扱う人生のシーンを一覧

- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生の選択(就職・大学院進学)</li> <li>2. 給与と税金・社会保険</li> <li>3. 購買行動と信用履歴</li> <li>4. 車購入</li> <li>5. 海外旅行</li> <li>6. 住宅購入</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 病気・入院</li> <li>8. 交通事故</li> <li>9. 資産管理</li> <li>10. リストラ・失業・セーフティネット</li> <li>11. 老後ファイナンスと引退計画</li> <li>12. 人生の選択(不確実性)</li> </ol> |
|---|--|

セッション番号	内容/Contents
Session 3 ケース: 人生の選択(就職・大学院進学) 人生の機会費用について学ぶ	人生において、人は様々な選択をしながら自分の人生を計画している。しかし、その実態は実現可能な選択肢とそのメリットデメリットを知らないままに多くの選択をしている場合が多い。このように選択を知らない場合も含め、失っている機会から得られるであろうものを機会費用と呼ぶ。選択をするときに機会費用を知ったうえで選択をすることでより積極的な人生設計が可能となる。
Session 4 ケース: 給与と税金・社会保険 給与明細をもとに所得について学ぶ	就職をして給与明細を手にするすると手取り額、つまり自分の預金口座へ振り込まれる予定額と支給額の違いに驚く人も多いだろう。この控除項目である税金と保険について本講で学ぶ。
Session 5 ケース: 購買行動と信用履歴 信用履歴を築くことの重要性について学ぶ	信用履歴という考え方は欧米においてより浸透している概念である。信用履歴とは築き上げていくものであり、個人の人生においてうまく活用できるものである。自分の信用がどんな意味を持つのか、どんな場合に必要となるか、そしてどううまく活用していく必要があるのかについて学ぶ。
Session 6 ケース: 車購入 ペイメントオプションについて学ぶ	「商品としてのクルマ選び」に議論の中心を置かず、「どうやって買うか」「いつ買うか」についてケースを通して学んでいく。
Session 7 ケース: 海外旅行 身近な事例から為替の仕組みを学ぶ	外国為替について、身近な海外旅行というケースを通して学んでいく。為替レートの決定の仕組み、クレジットカードの引落(決済日)と購入の時点に差がある事実を理解する。自己の生活に関係のある事象を基に学ぶことで為替の仕組みを身近に修得していくことが狙いである。
Session 8 ケース: 住宅購入 金利、現在価値、自己資本率について学ぶ	家を購入する際の金利計算について学習する。返済方法について①元金均等②元利均等③元本据え置き利息のみ払い(バブル時に使用された)の返済方法が現在価値では同額になる事を確認する。そののち各返済方法によってリスクが違ふことを自己資本率の違いから確認する。日本ではあまりなじみのない資産に対する自己資本率の概念を理解できるようにする。
Session 9 ケース: 病気・入院 不測の事態への備えや保険制度の仕組みや活用について学ぶ	万が一の事態には理論的なアプローチをとらない人が意外に多い。しかし万が一の場合でも最適の選択肢を取ることが望ましい。本講では病気・入院時のファイナンスについてケーススタディを行う。自分が働けない期間をどれくらい貯金や保険などで賄えるかという計算を行うことで、自分が生活を営む上で最低限必要なキャッシュ・フローを理解する能力を修得する。公的保険(健康保険)と私的保険(医療保険)の区別と効用についても学習する。
Session 10 ケース: 交通事故 逸失利益を時間価値との関連について学ぶ	交通事故による死亡した場合の逸失利益計算の仕組みを学ぶ。20歳の大学生、サラリーマン、フリーター、専門職、男女の性別などによって逸失利益が異なることを計算で確認する。計算方法以外に、生涯賃金の概念を同時に学ぶ。
Session 11 ケース: 資産管理 自分の資産を積極的アプロ	資産管理には投資も含まれる。投資は自分には関係ないと考えている人も多いが、自己資産をリスクマネジメントしながら管理することは責任ある社会人では誰もがが必要なことである。

一斉でリスクマネジメントする考え方を学ぶ	
Session 12 ケース: リストラ・失業・セーフティネット 定期収入とセーフティネットについて学ぶ	予期せぬ事態で急に収入源が絶たれた場合、どうすればよいのだろうか？自分の貯金だけでどれくらいの期間、出ていくキャッシュ・フローを支えることができるのか。また別の一時的収入源を得るようなセーフティネットは存在するのか。定期収入というキャッシュ・インがなくなった場合のケースを学習する。
Session 13 ケース: 老後ファイナンスと引退計画 現役時代から考えるリタイアメントプログラムについて学ぶ	どういった老後を送りたいのかは個人による。老後の過ごし方についてカードを引いてグループごとに設定された理想の老後についてどうやって資金調達(ファイナンス)するのか、以下の式を満たす計画を立ててもらう。 (受取年金) + (準備資金) < (理想に必要な予算)。 将来の必要資金を計算するので終価(将来価値、future value)計算やデフレーション、インフレーションの影響についても議論する。( * 受講生のレベルによる)
Session 14 ケース: 人生の選択(不確実性) 不確実性について学ぶ	これまで学習してきた人生におけるイベントについて不確実性を考慮して振り返る。魅力的に見える選択肢も不確実性を考慮してみると、別の側面があることを受講生は発見できる。

### Section III: Wrap ups(総括)

セッション番号	内容/Contents
Session 15 まとめ	ケーススタディを通じて修得した知識・能力の総まとめ講義とグループ発表を行う。学習内容の再確認と重要概念やスキルの定着を図ることを目的とする。

以上、引用は終わりです。

###

#### ビザ・ワールドワイドについて

ビザ・ワールドワイド(以下、Visa)は、世界規模のペイメントテクノロジーを提供する企業です。世界の 200 以上の国と地域において、現金・小切手の代わりに電子通貨を利用することを可能にし、消費者、企業、金融機関、政府機関を結ぶ役割を果たしています。毎秒 2 万件を超す取引を処理できる VisaNet は世界でも最先端の情報処理ネットワークで、電子通貨の基盤であると同時に、消費者を詐欺や不正行為から守り、加盟店への確実な支払いを可能にしています。Visa の事業の特色として、カード発行、融資、会費や利息の設定を消費者に直接行わないことが挙げられます。Visa は取引先金融機関を通じて、デビットカードによる即時決済、プリペイドカードによる事前決済、クレジットカードによる事後決済といった多彩な選択肢を提供しています。詳しくは [www.corporate.visa.com](http://www.corporate.visa.com) (英語サイト) または [www.visa.co.jp](http://www.visa.co.jp) (日本語サイト) をご覧下さい。